

# 第2回 地域のたから 自慢の逸品

## 「姿を消した名物・茶」

仙台市博物館学芸員 菅原美咲

### 富谷・吉岡の茶

新緑が輝く五月初旬、そろそろ新茶の便りが届きます。現在ではほとんど見かけなくなりませんが、江戸時代には、仙台藩でも茶が生産されており、一部は江戸にも出荷されていたようです。

仙台藩内で茶の産地の一つとして知られていたのが、黒川郡の富谷、吉岡地方です。「安永風土記御用書出」という江戸時代中期に作成された藩内の村々の村政要覧をみると、富谷村・穀田村・明石村・西成田村など現在の富谷町一帯に茶畑があったことがうかがえます。

しかし現在この一帯は仙台近郊のベッドタウンとして、国道四号線を挟んだ丘陵地帯に住宅団地が広がっており、往時の様子をうかがうことはできません。

江戸時代には奥州街道がこの丘陵地帯の下を通っていました。「増補行程記」という奥州街道沿いの名所・旧跡・名物等を詳細に記した江戸時代後期の街道絵図には、街道沿いに茶畑が広がっていたことが記されています。

当時の茶作りでは、春と秋に茶畑に馬糞などの肥料を入れ、栽培していました。茶摘みは田植えが終わった後の新茶と盆前の二番茶の二回行っていたようです。仙台藩当主の記録である「治家記録」には、黒川郡宮床の領主が盆前の恒例の献上品として「宮

床新茶」を五代藩主伊達吉村に献上したことが記されています。宮床と富谷・吉岡地方とは少し離れますが、黒川郡の二番茶が藩にも献上されていたことがうかがえます。

### 藩主も公家も飲んだ茶

富谷や吉岡の茶は、主に仙台北下や藩内で販売されていたようですが、藩主・公家も口にするものがあつたようです。「風土記」によると、五代藩主伊達吉村は富谷村の源内という人物に「真切茶」という茶や五加茶・枸杞茶を藩に献上するよう命じています。

一方吉岡町では、上町の菅原篤平治が六種類の試作茶を藩に献上し、そのうちの「千鳥」「角文字」「政所」という銘柄が藩の買い上げとなりました。また、明和三年（一七六六）菅原篤平治が、仙台北下の蔵元を勤めた京都の商人である大文字屋の手代へ、五種の茶を販売したところ、大文字屋を通じて公家の九条家にその茶が献上されました。それを気に入った九条家では、「春風の香ほりもここに、千世かけて、花の波こす、末の松山」という五種類の茶を詠み込んだ直筆の和歌を篤平治に与えたといわれています。

### 旅人憩いの茶

奥州街道の宿場町でもあつた富谷宿や吉

岡宿には旅人の休憩所である茶屋がありました。奥州街道の宿場町を順番に読み込んだ「奥道中歌」には、「国分の町よりこゝえ七北田よ、富谷茶飲んで、あち（明日）は吉岡」と詠まれています。名物の茶が仙台北下を出入りする旅人たちの疲れを癒したことでしょう。

しかし、幕末期から明治にかけて仙台北域を中心に製茶方法の改良が進められた一方で、富谷・吉岡地区では次第に茶の生産が減少していきました。明治二年（一八八八）に明治政府の方針を受けて、宮城県でも茶業組合を設立するため、県内の茶業者の調査が郡毎に行われました。黒川郡では自身で茶畑を所持して販売を行っている家はわずか六軒しかなく、仙台北域や他郡と比べても少なくなっています。大正七年には販売は二軒に減ったといわれています。

現在では仙台へ至近の町として、車で通り過ぎてしまう地域ですが、奥州街道を歩いたかつての旅人に思いをはせてみれば、茶畑が広がる風景が心に広がってくるかもしれません。



「増補行程記 富谷宿入口付近」  
【写真：増補行程記 もりおか歴史文化館蔵】

SUNTORY  
東北サンさん  
プロジェクト  
since 2011

東日本大震災復興支援特別展 サントリー美術館

# おもしろびじゅつ ワンダーランド

Special Exhibition Suntory Museum of Art A Wonderland of Japanese Art in Tohoku

デジタル&アナログで  
楽しむ日本美術の  
テーマパーク!

## 2014.4/26(土) >> 6/1(日)

- 休館日 毎週月曜日、5/7(水)※4/28(月)、5/5(月・祝)は開館
- 開館時間 午前9時～午後4時45分(入館は4時15分まで)
- 観覧料 一般・大学生：600円、高校生：300円、中学生以下無料
- ※10名以上の団体は100円引き

中学生以下 無料

○主催/東日本大震災復興支援特別展「サントリー美術館 おもしろびじゅつワンダーランドin東北」実行委員会(仙台市博物館、サントリー美術館)

○共催/河北新報社 ○特別協賛/SUNTORY

○機材提供/シャープ株式会社 ○企画協力/大日本印刷LDMプロジェクト

TEL:022-225-3074

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台三の丸跡)

http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/

重要文化財 色絵五輪船文独楽形大鉢(部分) 肥前・有田、重要美術品 舞踊図(部分)、罫紙紙絵巻(部分) すべてサントリー美術館蔵